



令和5年 **11**月の大阪森林便り

11月の木の話 木材の乾燥材の特徴

- (1)  北米産木材 6期ぶり上昇 10~12月2%高 山火事で供給停滞
- (2)  花粉対策、都市周辺から 政府、スギ伐採・植え替え



11月の木の話 木材の乾燥材の特徴

*よく乾燥させた木材は、①強度性能の向上②狂いや割れの抑制③加工性能（接着・塗装など）の向上④腐朽や変色などの防止、の特徴があります。

*木材は含水率約30%以下になると、含水率の低下に伴って強度が向上します。

*含水率5~8%で強度が最大になり、これ以下の含水率では強度が若干減少する傾向があります。

*よく乾燥させた木材は乾燥していない木材と比較して強い材料といえます。

*よく乾燥していない木材で住宅を建てると、建築後も乾燥が進み、含水率約15%で安定するまで収縮し続けることとなります。

*この乾燥過程において部材がねじれたり曲がったりする狂いが発生して建付けが悪くなるだけでなく、割れや接合部分にゆるみが生じて住宅の強度にも影響する原因に。

*雨や結露によって木材が一時的に濡れても、すぐに乾燥するような使い方が重要です。

*木材をよく乾燥させてから加工・使用することは、製品の品質や性能を安定させるためにとても重要です。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100問より抜粋引用)

(1) 北米産木材 6期ぶり上昇 10~12月2%高

山火事で供給停滞

*北米産木材の対日価格が6四半期ぶりに上昇。

*カナダ産は日本の木材輸入量の2割を占めます。

*SPF（トウヒ・マツ・モミ類）の10~12月期の日本向け規格価格は、7~9月期に比べ2%高。

*カナダの2023年4~6月期のSPF生産量は1~3月期に比べて6.0%減少。

*そこに大規模な山火事が発生。消失面積は過去最大。

*北米の流通在庫のだぶつきは、ほぼ解消。

(2023年10月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 花粉対策、都市周辺から

政府、スギ伐採・植え替え

*政府が5月に示した花粉症対策の大枠では、30年後に花粉発生量を半減させる目標を掲げました。

*スギの人工林については伐採規模を現在の年間約5万ヘクタールから7万ヘクタールに広げ、10年後に2割ほど減らします。

*都市部の周辺を念頭に「重点区域」を年度内に策定。

*2023年度中には国産木材を使った表示制度を設け、木造建築への活用を促します。

*薬を使って花粉に反応しない体質に改善する「舌下免疫療法」の治療薬の生産を、2025年にも現在の年間25万人から50万人分に増やす目標。

☆花粉症対策の初期集中パッケージのポイント

発生源対策	*2023年度中に伐採・植え替えの重点区域を指定 *伐採に必要な高性能機械の導入支援 *住宅資材へのスギ材活用の促進
飛散予測	*スギの花芽調査の詳細化 *スーパーコンピューターや人工知能を使った花粉の飛散予測
発症対策	*「舌下免疫療法」の薬を2025年にも現在の2倍の50万人分に増産

(2023年10月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

